

平成20年度文化庁委嘱事業
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

日本語能力を有する外国人対象
日本語能力を有する外国人対象

日本語ボランティア養成講座 事業報告書

「ことばの会」企画運営委員会

平成21年3月31日

目次

はじめに	1
I 講座内容	2～28
1 第1回	
2 第2回	
3 第3回	
4 第4回	
5 第5回	
6 第6回	
7 第7回	
8 第8回	
9 第9回	
10 第10回	
II 企画運営委員会（議事録）	29～37
1 第1回	
2 第2回	
3 第3回	
4 第4回	
III アンケート	38～43
おわりに	44

はじめに

「日本語能力を有する外国人対象 日本語ボランティア養成講座」は平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委嘱事業として、「ことばの会」が実施したものです。

愛知県は東京に次いで、外国人が多く住んでいます。増えるばかりの外国人に対して、日本語教室も各地域で開かれています。ボランティアの数が足りていないのが現状です。

そこで、本事業を開催することで、日本語ボランティアとして活動を共にする仲間を増やそうと企画しました。

愛知県は日系ブラジル人が多いことで有名ですが、名古屋市内においては中国・韓国・フィリピン・ブラジルの順で外国人が在住しています。従って、市内の日本語教室に通ってくる学習者も中国・韓国籍が三分の二を占めています。その中でも、長く通ってくる中国・韓国人女性の中で、日本語能力試験1級を取得した人たちの多くは日本人の配偶者を持ち、子育てをはじめ、日本の生活を身をもって体験しています。

来日間もない人々にとって、日本語習得は切実ですが、日々の暮らし方に慣れることも重要です。多文化社会の人材活用として、日本語のみならず生活全般について、母語で支援することもできる彼らに日本語教室や学校で活躍してもらえよう、学びと活動の場を提供することを目的としました。

この報告書は「日本語能力を有する外国人対象 日本語ボランティア養成講座」企画運営委員会の講座と並行して、進められた話し合いの記録及び講座内容に関する事業報告です。

日本語能力を有する外国人対象 日本語ボランティア養成講座

講座内容

[第1回] 09.1.16 10:00-12:00 女性会館 第2研修室
「学んできたことを振り返って」 講師：鈴木勝代

1、アンケート回答、名簿の確認

着席した人から、講師作成のアンケート用紙の回答、又作成済みの受講者リスト（住所、氏名、電話番号、e-mail）の確認をしてもらった。

2 a、本講座の成り立ちと目的

成り立ち…日本に住む外国人の増加に対し、日本人ボランティアでは数的にも質的にも限界がみえてきた。そこで文化庁は、「先に来た外国人が後にやってくる外国人を助けるというのが理にかなっているのではないか」と考え、愛知県で“日本語学習上級者”が一堂に会する数少ない（唯一の？）場である「ことばの会」に依頼がきた。

目的 …今までに十分に獲得した日本語を、今後どう活かすかを考えて欲しい。

日本人との違いは“今までに自分が経験した苦勞”という財産。それを活かさない手はないと思いませんか。活躍の場を求めて外へ出ることを考える時、本講座で考えたことを、そのステップアップの足がかりにしてほしい。

また、日本人同士で考え、17年間運営してきたこの会（ことばの会）だが、果たしてそれが的を射ているものなのかを、私達も考える場とさせて欲しい。

外国人であることを活かした活躍の一例：

- ・日本で芥川賞をとった中国人女性ヤン・イー
- ・日本ユニセフ協会大使を務めるアグネスチャン

2 b、日本在住の外国人に関するデータ

日本在住の外国人は220万人（正確には215万人、名古屋の人口に匹敵）。

名古屋市在住の外国人は22万人で、東京に次ぐ全国2位。

内訳は 愛知：1 ブラジル、2 中国、3 韓国、4 フィリピン

名古屋：1 中国、2 韓国、3 フィリピン、4 ブラジル

2c、「多文化共生」

言語、文化、習慣を理解し合う。

例えて言えば…麺類で日本にもともとあったのは「うどん・そば」、そこへ中国からのラーメン、イタリアからのパスタ、韓国からは冷麺が加わり、いろんなものを楽しめるようになった。元々存在した「うどん・そば」が消えることなく、レパートリーが増えて豊かになった。

せっかく多種多様になった文化や習慣をどれも尊重しながら楽しむにはどうしたらいいか。日本人が外国人のことを考え、検討外れになってしまったりするより、外国人自らがそれをしたら、どんなに効率的で、より豊かなものができることか。

学習者以外の紹介（聴講者、講座スタッフ）

3、グループディスカッション（アンケート用紙の回答について）

3つのグループに分かれ（国をバラバラにして）アンケートの質問についてディスカッション。

4、今日の講座を終えて

この講座を受けるかどうかを迷っていた人はと聞くと、半数以上が手を上げた。

その理由は、

「講座は受けたいけれど、終了後ボランティアと言われると、力不足なので困るから」
講座を受けて過去の学習について振り返り、日本語教室で必要なことや不足していること、またこれから自分が身につけるべきこと等について意見をし、他者の意見を聞く。
これは外国人だからこそできる大きなことなのだ、ということ伝え、終了した。

[第2回]

09.1.23 10:00-12:00 女性会館 第3研修室

「母語を生かす活動を考える」

講師：米勢治子

配布資料：母語を生かす活動のためのワークシート

1、先週の内容確認と本日の内容の紹介

2、グループ活動の目標

①「日本で生活していくための支援を考える」

これから日本に来て日本語で暮らす人たちのためにどんなことができるかを考える。

②「日本語を学ぶための支援を考える」

日本語習得の上で何が大変だったかを振り返り、対応策を考える。

③「日本語を教えるために何ができるか考える」

提示された項目が本当に必要かを考え、必要ならどのような対応策があるかを考える。

3、活動内容

学習者 2～3 名と日本人 1 名でグループになる。

日本人：進行役となって学習者の意見を聞く。

学習者：自分の意見をワークシートに書きながら話し合う。

グループ活動：グループの意見を模造紙に書く。

4、グループ発表

第 1 グループ

先輩からいろいろな情報をもらって助かった。日本語の勉強に悩んだ。

日本語ができないと友達も生活も仕事もない。中国人の考え方で詳しく教えてあげる。

(日本語を教えるには) 文化やルールや法律などの知識が必要

第 2 グループ

学校に行くのもいいけど、生活するためには生活をしながら覚えるのがいい。

夫の「大丈夫」という言葉を信じて日本に来た。日本語教室があるから大丈夫だった。

料理を教えながら日本語を教える。自分や友人の体験話を通して楽しく教える

第 3 グループ

先入観を持たずに暮らしたほうがいい。冷たいと感じるのは日本人だからというわけではなく、個人の性格だと考えて、重く考えない。

新しく日本に来た人は、同じ文化の人がいると安心だし、正しい情報が伝わる。

友達がいつも助けてくれるので困ったことがない。日本語を教えるというよりサポートが必要な場合もある。その場合、全部を手助けするのではなく、必要な部分だけサポートするのが大切。

第 4 グループ

韓国には地震がないので「地震」は違う世界のように遠く感じるが、必要なことは家族で話し合っておく。

友達作りは初めはやさしいが、ずっと友達関係を続けるのは大変。でも、友達は大変。

自分の文化と日本の文化の違いがあるので文句や不満をいうのではなく、まず違いを理解し、認めることが大切。

日本人はとても親切で、日本人の親切に囲まれて暮らしている。でも、自分で生活をしていくためには、その親切な世界から外に 1 歩出る勇気が大切。

挨拶は相手が笑ってくれるまで続ける。文化や習慣の違いは仕方ないので、マラソンやお

祭りに参加してその違いを感じないように努力している。

安い店など生活情報を教える。プラス面だけを熱心に話す。

5、まとめ

話し合った結果、学習者のみなさんにはできることがたくさんあることわかった。

そして、それを自分で確認できた。

日本人にはできなくて、学習者だからできるというところをいかしてもらいたい。

教室にはたくさんの国の人が集まる。日本語以外のことでも先輩にいろいろ助けてもらって教えてもらう。

また、先輩学習者であるみなさんが、日本語が上手になった成果を見せることにより、

「私も上手になれる」という勇気やモチベーションを与えることができる。

自分の得意なことをいかして教えることもよい。

新しく来た人だけでなく、日本人にも学習者の体験談は必要である。

日本の人にも外国の人を理解してもらうことも必要である。

[第3回]

09.1.30 10:00-12:00 女性会館 第3研修室

「毎日の生活で使える日本語」

講師：伊藤典子

配布資料：セルフチェック用紙1枚、レジュメ1枚、資料1枚

10時の時点では着席者は5名。10分になり、8名となったので開始した。

(2グループに分かれて座った)

1、自分のことを知る

- ・アンケート (セルフチェック用紙に回答→話し合い)

2、学習者のことを知る

a.学習者の状況

b.学習者が望んでいること、必要だと感じていること

3、教材について知る

- ・自分が使用した初級教材の分析「みんなの日本語」の分析
- ・運用につながる (学習したことが使えるようになる) 教材の使い方について考える

4、今日の講座を終えて (ティータイム)

1、自分のことを知る

教授観調査 (『日本語教師の役割/コースデザイン』日本語教授法シリーズ1 国際交流基金 より) 自分が理想とする教え方はどんなものかを自覚する。また自分とは

違う考え方もあることを認識する。

- ・ チェック用紙回答
 - ・ 回答結果をグループ毎に発表
- GA：文法を教えるかどうかは、意味がわかる程度には必要
発音は、早めになおしたほうがいい場合もあるし、後の方がいい場合も。
- GB：文法については、中国系は助詞・無主語等について知らないと思進まないと
思う。国によるかも？
- ・ 回答集計 1.2.4.7.8.11.12.15.18 の合計：文法面の重視度合
3.5.6.9.10.13.14.16.17 の合計：文化面や学習意欲の重視度合い
どちらの合計の数値が高いか？→自分の傾向を知る。

2 学習者のことを知る

- ・ 学習者の状況
- 初対面の学習者からどんな情報を得るか？
(回答)・来日の目的・・観光か勉強か仕事か
- ・ 個人的な性格
 - ・ 日本語学習歴と現在のレベル
- (講師回答)・国(母語)
- ・ 外国語学習歴があるかどうか(その言語数)
 - ・ 現在の気持ち(心理的状态)
 - ・ 日本語学習に対する意欲
 - ・ 日本語を使う場面(学生?主婦?労働者??)
 - ・ 希望の学習速度(すぐに必要なのかどうか)

3 教材について知る

- ・ 初級時使用のテキストは?・・みんなの日本語I、自国のテキスト…
(前回、使用したテキストを持って来るよう指示したが、持ってきたのは1名)
- * 『みんなの日本語』: すぐに日本語が必要な一般成人対象
 - * 『新日本語の基礎』: 主に技術研修生対象
 - * 『標準日本語』(中国語テキスト): 体系的日本語・・・?
- ・ 各自が使用したテキストについて分析、発表・・(レジュメP2)

Aグループ : 「標準日本語」

初めて学ぶ人が楽しく学べる

対象: 一般日本人

特徴: 自国での独学の際、日本の文化や習慣が学べた

備考：基礎から学べて良い。ボランティアの教室で使える。
中国語で書いてあるので、最初でも不安なく勉強に入れる

B：「みんなの日本語」

対象：一般社会人

特徴：どんなタイプの人でも使えるいい本。

全体の順番も良いし、会話例があり、その練習問題があるのがよい、
CDがついていることが最も良かった。

B：「新日本語の基礎」

対象：一般社会人、仕事用？生活のことばが少なかったです。

特徴：テープも買い、聞きながらの勉強できたのは良かった。

その後「みんなの日本語」を見たが、似ていると思った。
生活の言葉は「新日本語～」は少なかった。

講師：

ボランティア教室で使うという観点から見ると、『みんなの日本語』は
良い点も多いが、文法積み上げ型なので、学習者が数回休んだら
ついていけなくなるというデメリットもあります。
また、学習に時間を要する（一冊1年以上…）というのも人によってはデメリット。

・ 教材の使い方を考える

「場所を尋ねることができる」という学習目的で、「みんなの日本語」の3課を
どう使うか。練習問題を、どのように使うか。

～参考～

練習A

練習B 1. ここは～です

2. ～はどこですか ここ/そこ/あそこ です

3. ～はどこですか ～です

4. ～はどちらですか こちら/そちら/あちら です

練習C すみません、トイレはどこですか あそこです どうも

Cの会話ができるようにするために、練習1～2、できれば3までやるとよい。
4までは、時間があれば、でよい。
さらに、これらの内容を見てみると、“ここ/そこ/あそこ”が大切になってくる。

【導入 → 練習】

というように、目標をもって使わないと、ただ単にページの順に説明し、問題を解かせるだけでは定着→運用までもっていけない。

練習の使い方も、まずは2人でやって慣れ、次に人の前でやり、絵を見ただけで文字無しでやってみて、最後に実際の場面で使えるように（実際に教室を出て使ってみる、自分で会話例を考えてみる）

[第4回]

「日本語教室見」

09.2.4 10:00-12:00 女性会館

講師:鈴木 勝代

1、「ことばの会」について

資料を基にボランティアの仕事を説明する。自分が学習しているクラス以外は見ることがないと、興味を持っていた。

2、教室見学（10:00～10:30）

- * 入門から上級まで18のクラスと親子教室を見学する。
- * 初めて申込に来た中国の人の受付を王さんが手伝う。

3、実際に参加する（10:30～11:30）

- * サバイバルクラスのアシスタント
- * 初級クラスで、前回に習った「みんなの日本語」を使っているクラスに参加する。

4、感想を話し合う（11:30～12:00）

（気がついたこと）

[入門]と[初級]

- ① 授業には準備が必要だと思った。
- ② 人前に立つには精神的にタフでないといけない。いきなりは自信がない。
- ③ 自分が楽しいと思ってやれば、楽しく教えることができるのではないか。
- ④ 多くの人があると、全体を見るのは大変だ。
- ⑤ 交流しながら教えるのがいい。
- ⑥ 自信のない時期は間違ふこともあるが、できるだけほめる。
- ⑦ 間違いが癖になると、直すことは難しいので、初めが大事。
- ⑧ 自分の発音が正しいかが心配だ。
- ⑨ 生活の中のことばを使って、練習するのがいいと思う。

- ⑩ いろいろ考えて発表するのは楽しそう。
- ⑪ 1回の授業だけではダメで、自分は復習を何回もしないと覚えられない。
- ⑫ 見学する前は責任のあることはしたくなかったけど、日本人ボランティアがいろいろサポートしてくれているのを知り、自分もやれることをやろうと思う。

[第5回]

09.2.6 10:00-12:00 女性会館 第3研修室

「外の世界を教室に持ち込んだ教室活動」

講師：衣川 隆夫

配布資料：講義のワークシート

☆参加者の自己紹介と本日の講義内容について

「教室活動についてどんなことがとりいれられるかを考える」

1、ワークシート「話してみましよう1」の活動を通してどんなことを感じられるか

*これは実際に初級・中級クラスにやっている内容で、日本語教師養成講座でもやっている。

ワークシートに準じて活動を行う。

- ①紹介したい場所を選んで、そこに何があるか誰がいるかを説明するための図を描く(5分)
- ②書き終わったら、まず隣の人にその絵を説明する。

聞いている人は質問はしない。「うん」「あーそうですか」とニコニコとして聞く。

説明が分からない場合は「わからない」という顔をする。

聞いている人が「わからない」顔をしたらわかるまで説明をする。

ペアを替えて、合計2回説明をする。

2、振り返り

・説明をしたときに「上手くいえなかったことは何か」「相手に通じなかったことは何か」を考える。

・この時間に新しく覚えたことばや表現は何か

・一人目より二人目に放すときに気をつけたことは何か

以上を、初めに個人で振り返り、その後グループで話しあう。

以下「 」は参加者の意見、*は講師のコメント

①「ガスレンジ、電子レンジの言葉はわかるが、どうしてそこに置いてあるかがわからなかったので自分の思っている言葉であるガスレンジや電子レンジだとは思わなかった。」

*大切なのは言葉を知っているだけではなく、聞いている人が「どう考えているか」によって、わかるかわからないかわる。

②「アルバイト先の絵に自分しか描けなかったら他の人の有無を聞かれたので、2回目には

描き足して説明をした。」

*通じなかったから「ここは、こうしよう」と工夫が生まれる。同じことを単に 2 回繰り返すだけではだめで、通じるように工夫して話すことが大切

③単語と単語を結びつけて説明するのが難しい。「すぐ前にある」などが使えなかった。
「マンションの地図で方向を教えるのは難しい。1 回目はバラバラで説明していたが、2 回目は順番を考えたり絵を追加しながら説明できた。」

*説明する順番は大切。同じ説明をしても順番を変えるだけでわかりやすい。
自分の頭の中で考えると気がつかないことがある。まず、口に出して相手に伝わるかどうかを考えることが大切。

キーワード 順番をかえる、言葉を足す、絵を描く

④「玄関にはいると、洗濯機があって、〇〇があって、〇〇があって・・・」と続いてしまった。

*これは、文法は正しいが、わかりやすく伝えるためには「あります」できるといいかも

⑤単語が増えた。「顔や手を洗うところ」が「洗面所」だという名前だとわかった。

助詞や動詞の使い方の間違いに気がついた。

例) 3 段がある→3 段ある 持って来るかな→持ってこよう などのほうが良い
しあわせところ→しあわせなところ 幸せの気持ち→幸せな気持ち

*勉強できるところは人によって違う。

2 のまとめ

何かを話すときに大切なことは「何が言いたいか」である

文法もだけでなく、知らない言葉を調べたり、他の言い方を覚えたりできる。

また、誰に話すかによってその話し方も違って来る。(日本人か同じ国の人か)

そして、2 回同じ話をするときは、単なる繰り返しでは上手にならないので、1 回目に良くなかったところを次にいかす工夫をすることが大切である。

☆教えるとは

・教えるとは、単に言葉や文法を説明するだけではない。

・テキストのパターンプラクティスより、自分の言いたいことを言うことが本当の練習
自分の言いたいことは、それぞれの頭の中でよく知っている内容である。それを言い表す工夫は記憶に残りやすい。つまり、自分の話したいことを覚えたほうが覚えやすい。

☆言葉を身につけるためには

相手をわかろうとすることが大切である。相手を知りたいと思わないと話さない。

また、自分をわかってもらいたいと思うことが教室では大切である。

3、話してみましよう

4人グループになり、AはBに向かって説明をする。Bはニコニコしてあいづちだけで質問はしない。Cは話を良く聞いて後で質問をする。DはAの身振りや話し方の良いところを見つける。

4、振り返り・・・グループ活動で見つけたもの

☆Aの良いところ

- ・表情や声のトーンが良い。
- ・話の順番がわかりやすい。話し方、文の並べ方が良い。
- ・声も大きく、言いたいことがはっきりしていて聞きやすい。簡単な言葉でわかりやすい。声で自信がわかる。

☆Aの感想

- ・自分の言いたい言葉、わかった言葉を覚えられる

4のまとめ

いろいろなことに気付くことが大切。看板があってもそれが文字だと気付かなければ文字を覚えられないように、気付かないことはわからない。

5、教科書を使った練習との違いは何？

テキストの典型的なパターンプラクティスをやってみる。

6、振り返り

テキストの表現はテストのための練習であって、言いたいことの練習にはならない。自分で言いたいことのほうがやはり覚えやすい。そして、言いたいけどいえなくて迷った言葉のほうが覚えているし使えるようになる。

まとめ

単なる会話練習ではなく、「言いたいことを言える」練習を心がける必要がある。



[第6回]

09.2.13 10:00-12:00 第1集会室

「活動の実際と気をつけたほうがいいこと」

講師：野澤佳子

配布資料：レジュメ1枚、

(2グループに分かれて着席)

1、野澤さん自己紹介、学習者について

学習者は(豊橋技科大)留学生の家族が多かったが、日本人と国際結婚した女性、就労者も増えてきた。南米出身の方々も増えてきた。

当初は教科書を使わず、「言いたいことを伝えられるようにサポートする」ことをしていた。学習者の発表の場(話をする場)として、地域の講座や学校等で機会を得て、そのための手伝いをしたり、就職(レストランや英会話講師他)の補助、スピーチコンテスト出場のための学習サポートも行った。

2、【日本語指導ボランティア】教室活動の実際

【毎週の活動の流れ】

10:30～班別練習 「みんなの日本語」「日本語を話そう」

11:40～全体学習

- ・新しい人が来た時、毎回班別学習の後に全体の前で自己紹介をしてもらう。
その為の練習(文型、発音…)をその日、学習し、発表する。
- ・歌の日:例)「世界にひとつだけの花」手話付きで、リズムを取りながら等…

- ・ 学習者による発表：

例) 自国の昔話、国の季節の行事等…

教室に関する学習者の意見をリサーチするためのアンケートを、中国の方が作成し、まとめてくれたことも。

「人前で発表」することで、必死になって語彙を覚えるので力がつき、自信もつき明るく積極的になるという効果がよく見られる。

【各種行事、協力等】

(レジュメ記載他) 台風で窓ガラスが割れた人の補助、出産の立会い、美術(参加者が出品)鑑賞…

3、考えてみよう！

Q：では、実際に自分がボランティアメンバーに加わるとしたら、どんな活動が考えられますか？

学習者回答：

- ・ まだ活動することに自信がない。
- ・ 歌「聖者の行進」を「あいうえおかきく…」で歌う
- ・ 「今月の日本の行事」について調べ発表する（節分等は実際に-豆まきを-してみる）
- ・ 童謡で文型学習(むすんでひらいて→テ形 等)

4、説明してみよう！

Qこの（日本人には日常使う言葉だが、実際に学習者が“難しかった”と言っていた）言葉を説明できますか？ どのように説明しますか？ 同国人の場合、出身国が違って共通語がない場合は？

「まんたん」「はじ」「えん」「いちじあめ」「せいちょうざい」「びよういん」「おもちゃ」「エンスト」「そで」

【説明】

- ・ 漢字で書くとわかる
- ・ 絵で描く
- ・ ジェスチャーで説明する
- ・ 自分も、おもちゃ…接頭語の「お」が付いているのかと思い「もちや」で調べてしまった
- ・ 英語の省略形は難しい

○指導の形態について

日本人スタッフ+外国人スタッフのペアで教える効果。

又、どのように分担するか。（ただ半分ずつ時間を担当するのでは意味がない）

5、外国人として、日本で日本語指導ボランティアをしてみて…事例紹介

〇〇さん（中国）のケース。

（背景）

知人に教室のことを聞いてきたのだが、とても楽しそうな雰囲気、縁を大事にしたいと思い、自分はスタッフ側として参加できないかと声をかけた。自宅での個人指導として日本語で説明が書かれているテキストを持ってきた学習者の学習の手伝いもした。

今では教室で指導をしたり、学習者にアンケートを取ったり、日本人スタッフのサポートにまわったりしている。

（良かった点） 〇〇さんと組んだ日本人スタッフの感想

「いきなり学習者に朗読させるよりも、まず日本人が発音してみせたほうがいい」

という、日本人では気づきにくい点に気づけた。

（問題点等）

同国者の学習者の家を訪問した際、言葉が通じる安心感からか、学習者に日本人スタッフなら聞かれないような個人的なこと（配偶者の仕事や出身大学等）を聞かれ、とまどった。

自分の日本語が信頼されているかどうか不安。悩みを理解してくれやすい外国人ボラが居ない。学習者ではないので間違っただけではいけないというプレッシャー。

（対策）

毎回授業後に相性を考慮しつつ担当を入れ替える、日本人とペアティーチングが良い

Q. この（〇〇さんの）例を見て、どう思いますか？

- ・ 同国人（特に大人）の学習者とは、仲が良くなればいいが、相手の背景がわかりすぎて人間関係問題に関わり、勉強どころではなくなってしまう場合が容易に想像できる。そういう意味で外国人スタッフは、+にもなるが-にもなるのでは…

6、ボランティア日本語教室で外国人が日本語を教える場合、気をつけたほうがいいこと

・関わり方 教えること

- ・間違えた、恥ずかしかった等エピソードを紹介するのは聴き手の記憶に繋がりやすい。
- ・国独特の癖（韓国は「ざ」が難しい等…）を教えるのは効果的。
発音のポイント等も同国人同士のほうが説明しやすい。

7、私たちが仲間と大切にしていること…楽しくてためになる日本語教室

縁を大切に、心をつくして、お互いに楽しむということ。

[第7回]

09.2.20 10:00-12:00 第1集会室

「子どもへの支援」

講師：松本一子

配布資料：レジュメ 2 枚、資料 1 枚

I 愛知県の公立学校で学ぶ日本語指導が必要な子どもたち

1、全国で一番多い 5030 人 (2 位の静岡の倍数)

- ・ 愛知県はブラジル人が多いのが特徴
- ・ 名古屋市内だけでも国籍別外国人登録者数は区によって特徴がある (資料参考)
(学習者全員に、日本での子育て経験無し。身近にも無)
- ・ 多様な子どもたちを学校以外の場でも、支援する活動がある。(両親も日本語を話せない為)

2、子ども達の背景はさまざま

- ・ 就労のために来日した家族
当初 3 年程で帰国予定が、ズルズルと滞在が長期化しているケースが多い。
- ・ 中国帰国者の家族
定住・永住を決めている
- ・ 難民として来日した家族
【以上 3 ケースは親が日本語を話せない場合が多いのが特徴】
- ・ 留学のために来日した家族
帰国するケースも少なくない
- ・ 国際結婚による家族
最近、増えているケース。17 組に 1 組の割合。
例) 日本人夫に中国人妻や、フィリピン妻。

II 愛知県の公立学校の取り組み

1、適応指導

- 来日時、どんな問題がありましたか？
 - ・ 通院時の会話。聞いて理解はできるものの、症状を伝えるのが難しい。
 - ・ 文化的なことに慣れるのが難しかった (靴を脱ぐ、等)
 - ・ 買い物。カタカナで書いてあると何なのかがわからない。
(シャンプーとリンスを間違う等)
 - ・ 挨拶の仕方がわからなかった
- 来日した子どもたちはどんな問題を抱えると思いますか？
 - ・ トイレの使い方がわからない
 - ・ 食べ物
ブラジルの味付けは塩コショウが基本なので、砂糖の入った煮物等は受け付けられない、お箸が使えない

*驚いた給食メニュー：ひじき（ゴミ？）、お味噌汁、赤飯、カレーうどん、
うなぎの蒲焼（黒いソース…見ただけで気持ちが悪い）、
牛乳（母国では冷たいまま飲む習慣がない）

・学生服への違和感（黒一色で不思議だった）

整髪料、髪の毛の染色、マニキュア、口紅、ピアスがOKなブラジル

●学校文化や教育制度が異なるためのトラブルがある

・日本の授業は、朝～昼食～午後まで長時間

・落第・飛び級が無い→先輩後輩の存在

・ブラジルは2月から始まり12月までのため、日本の学校が1年のまとめをする3学期に編入することになる

2、日本語指導、教科指導

担任指導、加配教員にとる取り出し教育、通常クラスへの入り込み指導、センター校に集めて指導など

3、進路指導

日本人の96%は高校に進学すること（中卒だと就職が困難）や、高校入学には入試通過が必要なこと（入試があることを知らない場合がある）などを知らせる

4、母語指導

母語で相談にのったり、母語で学習支援をしたりしているが地域差が大きい。

5、国際理解教育

教師や日本人児童生徒が外国人の児童生徒とどう向き合うかを考える

宗教上の問題について配慮をする（給食等）

Ⅲ日本語指導の留意点

1、来日時の年齢と日本語習得

来日時4～8歳の言語形成期で、母語の基礎作りがしっかりできないと、日本語しかわからない（母語喪失）、又は母語も日本語でも読み書き能力が不十分（ダブルリミテッド）という状態になりやすい

2、「日常会話が出来る子」に要注意

本が読め、字が書ける子を見て安心してはいけない。暗記して読んでいるだけで、意味が分かっておらず、漢字は「絵」のようにただ写しているだけのことが多い。

3、日本語指導と教科指導

できるだけ早く教科で日本語を教える。日本語の勉強だけでは学力が身につかない。

4、子ども向けの教え方が必要

認知能力に合った指導、スモールステップ、実演・実物・絵を多用

子どもは適応能力が高いので大丈夫、と思われがちだが、「学習言語」はなかなか身につかない、ということを経験しないと危険。身につくのに5年(±2年)、と言われる子どもの会話を聞いて母親が「大丈夫」と思ってしまうのも危険。

5、母語がわかる子どもには母語を利用する

IV愛知県の外国人学校で学ぶ子どもたち

1、ブラジル人学校

いつか帰国するときに備えてポルトガル語による教育を受ける。

日本の学校で適応しきれない場合に編入するというケースも。日本語は、週1～2時間
1ヶ月25000円+バス5000円+教科書3万円/年+給食費…40,000円/月程の大きな負担

2、朝鮮学校

在日3世4世になっていて母語が日本語のため、母国語であるハングルを学校で学び、
二言語を習得する。日本語は、週4～5時間。韓国人も多い

3、インターナショナルスクールなど

Vさまざまな支援

1、学校の場合

通訳翻訳の臨時職員、ボランティア（学校の取り出し教室で日本語指導）

2、地域ボランティアの場合

- 1)「栄日本語指導教室」名古屋市教育館 毎週土・日 午後2時～5時
- 2)「子ども日本語教室」名古屋国際センター 毎週日 午後2時～3時半
- 3)「まなびや@KYUBAN」名古屋市九番団地 毎週木・金 小学生 午後3時半～5時半
中学生 午後3時半～7時

【母語話者がサポートする際の注意】

- ・母語の使い方を間違えると、かえって子どもの学習の妨げになる。
- ・キーになることばや学習のポイントを母語で説明したり、背景になる情報を母語で説明

して、理解を助ける。

- ・理解しているかを母語で確認する

【ホームページ、参考文献紹介】

- * 『中国と出会おう』（国土社）日本語で母国を紹介する本。
韓国、ブラジル、フィリピンのものも有
数え方ひとつとっても手(指)の使い方は様々、割り算にしても筆算の書き方が違う。
外国人児童の抱えるハードルは色々。
- * 中国帰国者定着促進センター：<http://www.kikokusha-center.or.jp>
子どもの日本語指導に必要な情報が満載

【質疑応答】

- Q：子どもは中学生で、高校受験を控えている状態でした。
母国では成績が良かったのに、日本ではそのレベルまで1年たっても追いつきません。
このままでは受験校がありません。どうしたらよいでしょうか。
- A：名古屋南高校は3科目(国・数・英)だけの受験でよく、問題はルビが振られる。(過去問は公開されており、2/18受験、20日発表。面接もある)
入学後も母語のわかる支援員がくる(週に12時間程度)。

[第8回]

09.2.20 10:00-12:00 第1集会室

「楽しく活動するためには」

講師：吉田千寿子

配布資料：レジュメ2枚、資料2枚、インタビューシート1枚

1、教えてください

インタビューシートを使って、自分の情報を書き込み、隣の人と互いにインタビュー

Q：趣味、特技、国でしていた仕事、話せる言語、今いちばんの興味、
お国自慢、将来の夢

2、こんなとき、あなたならどうしますか？

「日本語教室や、子どもが通う幼稚園、学校で、“週に1回ボランティアを
していただけませんか？あなたができることを教えてください」と言われたら？

3、アメリカでの経験を少しお話させてください。

(上記2の冒頭の質問「あなたにできるボランティア」を受けて・・・)

私のケースをお話しますね。

今から20年ほど前、東海岸へ夫の仕事でいっていた2年間、当初は英語が分からず(スピードと南部なまりで…)大変でしたが、教会の英会話教室へ子連れで通っているうちに少

しずつ上達はしました。

そんな時、子どもの幼稚園から、上記のようなことを言われ、昔音楽の仕事をしていたこともあり、それを書いて提出しようかどうか…英語力に自信がなかったので迷いましたが、やってみようと思って提出しました。そうしたら、是非一度やってみて、と言われ、一度やったら「面白いから、じゃ、毎週やって」ということになりました。教室で勉強している英語では限界があるので、現場で習得していった英語は、とても力がつきましたね。

次に、子どもミュージアムでの各国の紹介、という話がありました。日本月間に「折り紙のワークショップをしてください」と頼まれたとき、前回つけた自信もありましたし、挑んでみました。その時に資料作りのためにパソコンを覚えたり…

ワークショップで出会った人たちと一緒に、その後折り紙教室を開催したりもしました。

特技や出身国、民族のことも生かして活動する、という道もあるんですね。

小さなステップは次への意欲にも繋がるし、世界もどんどん広がります。

さて。みなさんも日本語教師としての活躍方法として「テキストを教える」だけではなく、自分でこういった講座を内容としたものを作って授業とする、ということもありえるのですよね。

その際、どんな風にコースを作るのか、それを見ていきましょう。

4、コースデザインしてみましよう

1) コースとは？

(資料：“コースデザイン”参照)

- ・ そここがどんな学校なのか。
- ・ 教師について
- ・ 学習者のこと(ニーズ・レディレス調査)→コースの目標を設定する
- ・ シラバス作成(文法、場面、機能、話題…)
- ・ テスト
- ・ 評価
- ・ 個別指導

2) コースデザインしてみましよう

- ① どんな人が教えるのか 中国のAさんと料理好きな日本人Bさん
- ② 対象学習者 初級クラス10名程
- ③ 到達目標の設定
- ④ 教える内容
 - a. 言語の働き：好き・嫌いな食べ物、その理由、料理の説明(味・材料、味…)
 - b. 語彙：食べ物、材料の名前、その数え方、料理法の動詞や副詞、調理器具の名

前、味の形容詞

- c. 文型・表現：～が好きです／きれいです。～が～にあります。～てください。
～てから～ます。
- d. その他：ギョウザの由来、歴史、種類、安くて美味しいお店の情報、食生活～マナー等。

⑤ カリキュラム：スケジュール、教材、教え方など。

隔週の水曜日、13-14時、全5回、女性会館の調理室を借りる
教材はレアリア、教え方は直説法？

⑥ 教室活動 2～3人のグループで活動。

日本人がいればグループに入ってサポートしてもらおう

⑦ 学習者/授業への評価・分析、コースの見直しや修正

「中国と出会おう」より… 水餃子の作り方、のレシピをみて、表現方法について考える。難しい点等

ボソボソ、って？パサパサとの違い？／菜箸？→レアリアで提示する
／「白菜を湯に通す」って／

5. 今度はみなさんが講座を作ってみましょう。

例) ・日本語の生活の難しいところを母語で解説

・生活の情報

靴の底修理をどこでできるのかわからず困ったことがある。

・テレビを使って勉強する

→ラジオは聞きやすい。お笑い番組は予測がつかないことを言うのでわからない。
箸の使い方を勉強したことがある。

・日本に溶け込めるように友達をつくりましょう

→日本に来て数年だけど、友達ができない。今習い事を始めてみたところ。

でも、日本人同士でも、どこかに所属しない限りなかなか友達はできない…。

● まとめ

「受け手」から「送り手」になってみましょう。

受けているだけよりも、学ぶものがとても多いです、コミュニケーションも広がります。

“情けは人の為ならず”

[第9回]

09.3.6 10:00-12:00 第1研修室

「日本語をどう教えるか」

講師：宮谷敦美

配布資料：レジュメ 5 枚、資料 2 枚

1、日本に住む外国籍住民にとって、必要度の高い日本語をイメージしてみましょう

日常生活で日本語が必要な場面は？
職場では誰に何を話す必要があるか？

2、得意なこと、話したいこと、ありますか？

得意なこと、話したいこと、って何ですか？

3、私たちがコミュニケーションする目的は？

日本語を教える、とは、こちらが「説明する」ばかりではない。
相手の言いたいことを引き出し、語彙を増やしていく手助けをすること、それが教えることになる。

【コミュニケーションの目的】

- ・ 目的を達成するために（お茶に誘う、お金を借りる、休みの許可をもらう）
- ・ 人間関係を創り出すために（おしゃべり）

4、教室活動をシュミレーションしてみよう

一般的に必要度が高い「病院」について考えてみましょう

「病院に関すること」で出る会話とはどのようなものがあるでしょうか。

みなさんはどんなことを話しますか。

その他、病院についてのおしゃべりにはどんなものがあるでしょう・・・

- ・ 体験、知識、好みを聞いたり、教えたり。
- ・ 病院へ行く頻度
- ・ 肩こりについての話、つばについての会話
- ・ 病院の好き嫌い（病院の思い出）

以上のような会話をクラスで取り入れる場合、「目的達成型」「おしゃべり型」どちらが楽しい？

どちらが有益？どちらが好きですか？？

授業用の資料：資料 1、資料 2-1

- ・ トピックについて、どんなことを話したいか
病気になったとき、どうしますか？と聞いたことがあるのですが、
中国は体に油を塗ってコインでこするとか、韓国はサムゲタンを食べる、
ヨーロッパではチキンスープ、フィリピンではレモンに塩、というのもありました。
- ・ 学習者ならではの知恵を話したりするのも良い

地下鉄の切符がいくらか、など聞けなかったので、“一番安い切符を買います。後で乗り越し清算をすればいい”と言った人がいました。“スーパーへ夕方6時にいくのがいい、行ったら、赤いシールに漢字（数字じゃなくて、なにか、漢字）が書いてあるものを買うといい。”という意見も。そういう、外国人ならではの知恵、ありませんか。

5、ポイント1 おしゃべりしながら、日本語上達に結びつける方法

表現方法を口頭で繰り返しているだけではつまらない。

一つのトピックを繰り返しながら、スパイラルに難易度を高くしてく

→ 何度も語彙や表現を使えて、覚えやすい。

● パターンの変え方

同じトピックについて・・・

情報を変える：①何を②どこで③いつ④誰と⑤どうやって⑥どうして（なぜ）

他、いくら？

視点を変える：①日々の生活②自分の経験③地域の情報④比較（国/地域/職場など）

● では、実際にやってみましょう

①トピックを上げ、片方がパターンを変えた質問をしてみる

→ 3分の制限時間で収まらないほど、会話が盛り上がっていた

相手の話が色々引き出せて楽しかった、という感想

②初級者でもわかりそうなトピックを何か考えて、視点替えの質問をつくりましょう

自分の経験談を話すこと、そこから生まれた質問をし、答えを得ることというのは、一番入りやすいと思います。また、自分のことをたくさん話すのは達成感を感じやすい。

6、ポイント2 分かりやすく話すための工夫

①文は短くする

②ゆっくりはっきり話す

③頭でっかちはダメ、下膨れの方がいい

例) ×朝食べるものは、何ですか。 → ○朝、何を食べますか。

×昨日行ったスーパーはどこですか。

→○昨日、スーパーへ行きましたか。どこですか

④困ったら、選択疑問文にする。

例) どこへ行きましたか → スーパーへいきましたか、会社へいきましたか

⑤まず、ボランティアが例を出し、それから学習者に尋ねる

例) 私はよくラーメンやに行きます。○○さんは、ラーメン屋（どこ）に行きますか。

「私の来た道」

講師：鈴木 / ゲスト：ベクさん（愛知県国際交流教会）、ポンさん（名古屋国際センター）

配布資料：レジュメ枚、資料2枚

1. ベクさん（韓国）のお話

来日14年。来日当初、主人は留学生で、大阪での生活でした。地域のボランティア教室（大阪国際センター）で勉強しました。

最初は3ヶ月初級、その次に中級へ進みました。

先生達が面白く、受講生同士の交流も楽しみでした。韓国人が多かったのですが、アメリカ、インド…小さな地球のようでした。今でもインドの友人とは交流を続けています。

それ以外に情報の交換、文化について学べることもメリットでした。

その後、一旦帰国したのですが、主人の日本に就職先が決まったこともあり、再入国することになりました。当時、子供はまだ4ヶ月でしたので、動きがとれず、友人もできずに辛い思いをしました。

当時のエピソードに「公園デビューをする」というものがあります。普段自分から声をかけるようなタイプではない私ですが、友達欲しさにぎこちない日本語で声をかけました。相手のお子さんがお喋りが上手だったので、それを褒めたかったのですが、「口がうまいですね」と言ってしまったんです。表現がまずかったですね。相手のお母さんの顔が曇り、私も気まづくなって、落ち込んだまま家に帰り、しばらく家を出るのが怖くなりました。その後子供が幼稚園等へ進んだことで、無事に友達もできましたが。

子供が幼稚園へ進み、小学校へあがると今度は自分の手が空きます。今度は「もっと社会とつながりをもちたい」と思うようになりました。YWCAに3ヶ月通い、日本語を教える為の知識を得ましたが、もっと勉強したいと思いました。しかしどこも学費が高く・・・そんな時、“放送大学”について知り、社会福祉について興味があったので、その課と、それから日本語の勉強をしました。その頃、色んなボランティアをしました。

万博でのボランティア、陽輝荘での外国人相手のガイド、愛知県国際交流協会での図書館でのボランティア、Radio-iでの韓国語放送のアナウンスや語学面での監修ボランティア。そこで使う言葉は普段使う言葉とはちがい、丁寧語、敬語…いろいろな言葉が必要になります。これはとても勉強になっています。また、人との交流ができ、この社会の一員だな、と感じ、自分の世界も広がります。外国人の世界は小さく狭いです。幼馴染や職場の友人、親類…というネットワークがないから。でも、こうして自分で広げていくこともできるんです。広げようと思えば、どんどん広がります。みなさんも、折角このレベルまでみにつけた語学力を無駄にしないよう、どんどん活躍ください。

質疑応答：

Q：外国人に日本語を教えて、苦しかったこと・楽しかったことはなんですか？

A：外国人に日本語を「教える」という経験はまだないのですが、ボランティアをしていて、細かいニュアンスが伝えきれない時、もどかしさを感じます。良い点は、ある感情を抱いた時、これは日本人では理解できない感情だろうな…と思うことが時々あります。他の外国人、あるいは同国人に接する時、そういう感情を共有でき、それについてアドバイスできるのは、私が外国人である利点だなあ、と思います。

Q：最初はどのくらいのレベルですか？

A：全く話せず、平仮名・カタカナから始めました。

2. ポンさん（中国）のお話

11年前、主人の就職のために来日しました。娘は3歳でした。主人は仕事、夜は残業ばかりだったので、生活に関わる色んなことを、全部一人でしなくてはなりません。毎日テレビを見て日本語を聞き、日中は娘を連れて、近くの公園へ頑張っ行き、帰っては勉強…ある日娘に、「どうして毎日勉強してるのに、外へ出ると全然しゃべれないの？」と言われ、とてもショックを受けました。そんな時、ボランティア相談室で、親子で参加できる日本語教室があることを知り、片道1時間半の距離を自転車で通いました。通学は大変だけど、毎回楽しみで。

その後、一旦帰国したのですが、再度来日する機会があり、娘は両親に預けて私も日本に来ました。その後、日本語の勉強を続けていくうちに楽しくなって、大学への進学という夢もでてきて主人と相談し、実行しました。その中で、日本語能力試験1級の合格するという目標ももち、1年間かけて、ボランティアの人に助けてもらって週に4日勉強し、合格を貰いました。

交流教会から中国の文化について学校で話をしてみないかと言われ、小学校や中学校へお話をしに行くという経験もしました。

その後主人の転勤で来た名古屋では、国際交流協会で「地震や災害時の情報についての通訳ボランティア」に登録しました。

他に、主人の会社の人に日本語を教えていた経験があったので、交流協会でも教室を担当する機会を貰いました。最初は初級、その後中級以上も担当したりしました。

みなさんに一番伝えたい事があります。日本語を教わる際、まず「日本人に学ぶ」ということを考えるかもしれません。でも、最初に全く話せないとき、「キレイな日本語を学ぶ」ことより、「日本での常識」や「日本人の考え」「文化」について知りたかったですよね？そういうものって、日本人より外国人である私たちの方がよく分かっていると思いませんか？全くの初級者で、日本語のみで勉強を教わっていると、「わからない…全然わからない！！」とパニックになりかける場合があります。そんな時、そっと共通語（例えば英語とか、その人の母国語とか）でいわれた時の、その人の顔の輝くこと！あの表情は心に残って離れません。

日本語を完璧に話すことはできません。発音もキレイではありません。私にできることは、日本で日本語を教える「教師」として目の前の学習者と、自分の経験を踏まえて、じっくり、ゆっくり、最後まで、責任をもって付き合っていく。それが大事かな、と思っています。自分の国と、もう一つの国、二つの文化と付き合ってきたという経験が私にはありますから。そして、教えながら自分もたくさん学べる、日本語教師はいい仕事です。今までボランティアにお世話になっていた自分が、今度は相手から「ありがとう」と言われる、これはとても幸せな経験です。

Q：大学の専門はなんですか。

A：中国で秘書をしていた経験があるので、経済を勉強しました。

Q：入学に際しては推薦をもらいましたか。

A：推薦はなく、自力で入学しました。

Q：とてもアクティブですね。外へ出て仕事をするのが本来、好きですか。

A：好きです。努力は大切ですが、努力ばかりでは生活がつまらないです。「生活が楽しいものである」ということが一番大切です。楽しいからやっていること、という感じがします。

3. 終了証授与



各講師から各受講者へ (7名)

企画運営委員会

1 企画運営委員会 メンバー

愛知県では先に「バイリンガル日本語指導者養成講座」を開いた所はなく、この講座を開くにあたり、得られる情報が少なかった。また、講座の受講生をいかに活用していくかを考えると、大学関係者だけでなく、実際に外国人窓口になっている行政関係者にも協力を願うことで、幅広い視点から講座を考えていこうとメンバーを選考した。

委員長	鈴木 勝代	(東海日本語ネットワーク代表)
委員	米勢 治子	(浜松学院大学講師)
委員	宮谷 敦美	(愛知県立大学准教授)
委員	野澤 佳子	(豊橋市国際交流協会ふれあい教室)
委員	伊藤 雅彦	(愛知県国際交流協会職員)
委員	加藤 理絵	(名古屋国際センター職員)
委員	橋 弘子	(名古屋市女性会館職員)
委員	伊藤典子	(東海日本語ネットワーク副代表)
委員	吉田千寿子	(名古屋市立大学院生)
委員	内藤 久美子	(ことばの会)

委員 村松喜久子 (名古屋外国語大学院生)
委員 宮崎智美 (ことばの会)

2 委員会議事録

[第1回] 08.12.19 13:00-15:00 女性会館 第1研修室

1、委員自己紹介

2、講座の趣旨と内容説明

上級学習者に自立や自己成長の助けとなるものとしたい。習得した日本語を使って、社会や地域に自分から参加していくことができることを目標とする。

例) 日本語教室での活動、地域医療現場での活動など

現在の受講希望者17名

3、各機関の外国人活用の取り組み現状と将来について

①愛知県国際交流協会

現状：ボランティアとしては、語学ボランティアに登録してもらい、広報やお知らせの翻訳、イベントでの通訳、ラジオスピーカー（ZIPFMなど）、母国語での相談担当者（カウンター業務）などを行う。

将来：活用できるところで活用していきたい

②名古屋国際センター

現状：多言語スタッフとして情報サービスコーナーで活用（臨時職員・時給制）

英語・ポルトガル語などの特定の言語や職務内容に従事する3名が嘱託職員として勤務。

ボランティアとしては、外国人の登録者も増えている。語学ボランティアのなかでも医療・防災でのボランティア活動では、研修を行っている。日本語教室として、過去に中国人の高校生が習得した日本語を活かしてのボランティアを希望して活動していたが、学校が忙しくなり続かなかったことがある。

将来：一般職についてはこれまでとおおり日本人と外国人との区別なく募集・選考していき、嘱託職員も正職員へと変わっていく可能性がある。

③女性会館

現状：現在0歳から高齢者まで様々な方々へのサービスを意識はしてきたが、日本に来て間もない外国人への配慮が足りなく、パンフレットも日本語版しかない。

将来：これからは、取組むべき活動の1つとして、ニーズに合わせて外国人へのサービスも広げていきたい。

④東海日本語ネットワーク

現状：日本人向けの日本語ボランティア育成講座のみの開講で、外国人対象とはしていなかった。

将来：これからは、外国人対象の講座へと広げていきたい。

⑤ことばの会

現状：日本人のボランティアの中で自分達が先生であり学習者は生徒という感覚が抜けない。学習者を一緒に仲間に加えるという考えに切り替えができていない。

将来：学習者が日本語を教えるという活動も考えていきたい。

4、講座についての要望または意見

講座の内容について

- ・ どういう外国人の人材を育てていくか
- ・ 日本語教室のボランティアと違ったものもあるのではないか
- ・ 「学習した日本語」を使ってどんなことができるのだろうかを考えていく。
- ・ 学習者が日本語を教える立場になったとき、日本人ボランティアの意識はどうか？
お互いに尊重しあって助け合って教えられるか。
- ・ 講座は仲間作りの場でもあるので、参加して仲間を作ることも大切
- ・ 講座を受講するというのも学習者のステイタスとなることもあり、受講するために勉強するという良い影響もある。
- ・ 日本定住者が日本に貢献していくのではなく、日本人と同様に各種の講座を受けるべきではないか。日本人と別枠を設ける意義は何か。
- ・ 講座には日本人と学習者が混ざっていたほうが学習者の体験話を聞くこともできて、いろいろ教えられることもある。
- ・ 学習者が「自分が社会に参加している」という意識を持つような内容

出席者（敬略）：米勢、宮谷、衣川、橘、伊藤(AIA)、加藤(NIC)、野澤、鈴木、吉田、伊藤(TNN)、内藤、村松、宮崎

[第2回]

09.1.16 13:00-15:00 女性会館 第2研修室

配布資料： 今後の講座予定一覧（内容欄空白）

1 第一回の講座の報告

- 2 アンケートの回答報告
- 3 受講者のニーズについて
- 4 今後の講座の内容、構成についての検討
- 5 ゲスト講師（日本語界で活躍する外国人）について
- 6 諸連絡

1 第一回の講座の報告

出席は16名で、本講座の目的、日本在住外国人の状況からアンケート内容のディスカッションを進め（別紙のとおり）回答を得た。

受講者は全体的に講師の発話をよく理解しており、配布資料等にルビも必要なかったが、講師の声が聞きづらい、ディスカッションでお互いの発話が聞きづらいという意見もあった。

今後、受講者の理解度を確認しながら進めるよう、注意すること。

“講座終了後でも、ボランティアはまだできない”という不安を抱いて受講を迷っていた人がいたようだ。

2 アンケートの回答報告

（回答は別紙の通り）

3 受講者のニーズについて（回答をもとに…）

受講者が、日本語ボランティアをする上でもっとも不安に（不足していると）思っているのは、発音や文法等における“正確さ”。間違っているようでは教えられない！！しかし、これ以上発音を向上させるのは困難…と。

4 今後の講座の内容、構成についての検討

受講者は、「How to」を聞いたがっていると思うが、「いかに受講者自身の考え、意見を引き出すか」に力をそそぎ、受講者が自分から出た、あるいは人から出たニーズに目を向けることで母語の活かし方を見つけられるような講座にする。

- ・ 「母語を活かす活動」

日本語教室の中で／外で の、母語の活かし方。

母語があるのは強みだということを認識してもらう。学習者側でなくサポート側になる、といっても、「教える」ことをする必要はない。何もしなくても、何かを与えたりしなくても、「そこにいるだけで活躍できている」こともある。

外国人スタッフが担当する学習者の対象は、自国の人だけではないということも認識してもらう。又、初級者とも限らないことも。中級以上ほど言葉のニュアン

スが細かくなり、自国の言葉での説明が必要になってくる。
学習者が同国出身のスタッフに求めるのは発音や文法ではないだろう。

- 「生活に役立つ日本語」
困ったことの実験は、教える時には貴重な財産になる。
「最初はデス・マス体から習ったため、すぐに実生活で使えなかった」と言っていた受講者がいるように、文法積み上げ式のものは、実用的ではない。
ではどうすればいいだろうか、というディスカッションにしてはどうか。
- 「気をつけた方がいいこと・・・」
学習者側の求めに応じて、プライベートまで入り込まれて断れずに、困ってしまうというケースがあったため、気をつけるよう言うべきか。
しかし、求めに応じるのは悪いことではなく、入り込み・入り込まれるのをヨシとするタイプの人もいるだろう。
・・・こういう人もいた、という例を提示し、各自自分の可動範囲を考えるよう促す程度が良いか？
- 「ソトの世界をどう教室に持ち込むか」
まず“言いたいこと”を持ち、発言してみる。言いたいことが変われば使う言葉も変わる。その中で質問し、回答し・・・と歩み寄ろうとするうちに、言葉の学習となる。言いたいことが言えるようにサポートすると、それこそが日本語教育になる。
- 「楽しく活動するには」
講師側が楽しくなくては、授業は成り立たない。自分自身を活かした授業とは？
例えば、特技や趣味を取り入れる等・・・自分にはどんな方法があるかを探る。
・・・ということをもとに、コースデザインを考える
- 「どう教えるか」
 - ① 実際の15回分のコースデザインを考える
 - ② 各自タイトルを持って、学習する人のレベル等を考え、どんな活動をすることができるかを考える
 - ① で構成？「楽しく・・・」でもコースデザインを考える講座だが、こちらではHow toをメインに内容を構成する。

5 ゲスト講師（日本語界で活躍する外国人）について

日本語を獲得した人で、現在日本語を使って活躍している人に最後に実際に話をきけ

るといいだろう。

候補：日本語通訳の方、豊橋で日本語を教えている方（検討中）

※ 浜松では「緊急日本語」の初級クラスを担当している外国人スタッフがおり、最初のオリエンテーション、申し込み、教室運営上のシステム作りで活躍。教室活動における「質」より、「その人が活動している」そのことそのものがまわりに及ぼす好影響。

7 次回企画運営会議は2月6日（3月13日で終了）

2月4日(水)は、ことばの会水曜クラスを「スタッフ側の目線」で見学。

出席者（敬略）：米勢、宮谷、衣川、橘、伊藤(AIA)、加藤(NIC)、野澤、鈴木、吉田、伊藤(TNN)、内藤、宮崎、村松

[第3回]

09.2.6 13:00～15:00 女性会館 第1研修室

1. 受講者のニーズについて

多くの受講者のニーズは日本語を「教える方法」を学びたいというもの。グループワークで受講者同士が話し合うのではなく、直接講師が教え方を「教える」方法を期待していた。自分のやりたいことと違っていたという理由で、3回目以降受講者が半数ほどに減少した。

2. 今後の講座の内容、構成について

1. を受けて次回以降の講座内容、構成などの再検討をした。3回目以降は出席者がほぼ安定していることから、いままでのやり方が理解されていると考えられる。部分的な教え方を「聞く」より、自らがグループワークなどを通して活動することによって、気づくことがたいせつである。また、教え方の技術だけでなく、実際に外国人も活動しているボランティア教室の様子や、外国籍の子供の現状などの情報も欠くことができない。このようなことを確認し、次回以降もほぼ変更無しで進めていくことに決定した。

3. ゲスト講師（日本語界で活躍する外国人）について

第10回にNIC、AIAで活動している外国人に活動の内容などを語ってもらう。

4. 講座終了後について

ボランティア希望者を「ことばの会」で受け入れるのは現状では難しい。文化

庁の事業（教室運営）は主催者の都合でやらない方向でいく。

可能性として、①新しいボランティアグループを立ち上げる。②「ことばの会」以外のボランティアグループで受け入る。などが考えられるが、受講者の希望がはっきりしてから、検討する。

5. 終了証について

ボランティア参加の資格として、出席率が6～7割の受講者に終了証を授与する。

6. その他

第4回企画運営委員会には、受講者にも希望があれば、出席を勧める。

出席者：鈴木、米勢、衣川、伊藤雅彦、加藤、橘、野澤、吉田、内藤、村松、宮崎、伊藤典子

[第4回]

09.1.16 13:00-15:00 女性会館 第1研修室

○ 講座終了報告

1、第6回～10回までの講座の報告

- ・第10回は、いいゲストを紹介していただいて、興味ある話を聞かせてもらえた
- ・3回目くらいから参加人数が減ったが、その後の7名は固定で出席があり、最後まで来てもらえた（内1名は家族に急なことがあり、9回目から欠席し帰国）

2、講座全体を通しての反省

- ・呼びかけのときに講座内容を、もっとしっかり説明すべきだった。
こちらが思う以上に受講者に「教え方」を学びたいという要望があった。
- ・外国人スタッフの“受け入れ”が難しいということがわかった。
最後にでは、ことばの会で活躍を・・・と持っていたかったのだが、とても残念だった。
- ・受け入れられるように体制を整え、日本人ボランティア側も育てることが必要…。
- ・難しいのは日本人側・・・??（鈴木）

- ・講座をするに際し、“ノウハウを”という要望はあったが、それは1回2回で教えられるものでもないし、と悩んだ結果、あまり抽象的にならないよう、実際に教室でやっている活動を見せてみて、どう感じるか?を考えるようにした。
受講者の目標がなんなのか?ということの認識が足りなかったかな。（衣川）

- ・「教え方」学習者こそが（日本人よりも）たくさん体験してきているのに、今更教える必要はないのでは？

一度は受けてみたい、という気持ちをもって学習者を繋ぎとめられなかったのは残念。内容が興味深ければ、何か志をもってみよう、という気持ちをもてれば、受講者達は残ったはず。（米勢）
- ・ 大事なものは「人数」ではなく、最初の2回で趣旨がきちんと伝わって、それを欲していない人は来なくなった、それでいいのではないかとも思う。

最終的に適正人数（定員は10名だったので）になり、趣旨も最後まで一貫してよかったのではないか。（衣川）
- ・ 第一回の時に「教えるなんて自身がない」と言っていた学習者が、最後の今日声をかけたら「自分でも、何かに目を向けてやってみたい」と言っていたのをきいて、今回講座を開催した意義があったな、と感じた。

実際に活躍している人の話が聞けたのもとても大きな影響力を持つと思う。（野澤）
- ・ 女性会館での講座でもそうだが、無料の講座というのは簡単に人が抜けやすいものだ。受講生の姿勢を見ていて、とても精力的に出席していて魅力的だった。そういった姿勢を持った学習者を女性会館でも受け入れたいとも思うが、良い案も浮かばず…。（橘）
- ・ 講座全体としては最後8名、いい結果ではないかと思う。（伊藤）
- ・ 講座を進めながら、受講者の反応をみつつスタッフで随時話し合っ作り上げていったことは、よかったかな、と思う。国際センターでもよく「教授法を」と言われるが、それは個人が担当することになる学習者とどんな距離で、どんな目標をもって関わっていくか、で、変わっていくもの。教えるものでもないのでは？（）
- ・ 参加してみて、“ボランティアをすること”の有意義さを再確認した。

今まで受け手だった自分が送り手になった時の有意義さを感じてもらえたらいいな、と思う。（吉田）
- ・ ことばの会のスタッフ（日本人）の聴講者がもっとたくさんあって、理解がすすればよかったな、と思った。開催が1月でアナウンスが12月末、という時期的な問題もあったかな…

スタッフが誘った講座だったので、「辞めるのも悪い…」という人や「2回休んで

しまったので今更もう顔を出せない…」という人もいた。逆に、「こんなに魅力的な講座、友人も連れてきていいですか？」という人もいた。

- ・ 今回の講座は、ボランティアの会でやる講座としては人手不足を感じる。(会場もとれるかどうか…)
- ・ 受け入れが難しいわけではない。ことばの会内部への告知不足。疎外感
- ・ 「実はなにかやってみたい」とおもっている人が「何か」を見つけ、目覚めるきっかけになればいいかな。

3、アンケートの回答報告

作成・報告: 村松 (別紙参照)

4、講座に関わったの感想

- ・ 学習者にある程度の道を提示したあと、「では今度はこれをやって」と次まで用意するのはどうだろう。あとは受講者が自分で「何か」を見つけるまで待つしかない。「これをしたい」と言ってきたら、手助けをすることが大切。

5、今後に向けての課題

- ・ 講座自体の企画はいいと思うが、一般ボランティアの会で主催するのは無理がある。(場所の確保さえ危うい状態なので…)
- このような講座を、NICや交流協会でもらってはどうか。

出席者 (敬略) : 米勢、宮谷、衣川、橘、伊藤(AIA)、野澤、鈴木、吉田、伊藤(TNN)、
村松、内藤、宮崎

3、講座を受けてみてどんな内容の講座でしたか

- ① 日本語を教えるために必要な知識や技術を学ぶ。→6人
② ボランティアで教えることを学ぶ。→5人
③ 仕事としての日本語教師について学ぶ。→0人 ④ すぐに日本語が教えらる。→0人
⑤ その他 ()
→0人

4、講座を受けて良かったことは

- ① 日本語ボランティアについて、よく理解できた→4人
② 日本語を教えることに興味が出た。→0人
③ もっと日本語を勉強したい。→5人 ④ ボランティアで教えてみたいと思った。→3人
⑤ その他 ()
→0人

5、講座を受けてがっかりしたことは

- ① 思っていた内容と違った。→1人
*その内容を書いてください。(文法、発音、を教えるテクニック、テキストの使い方の内容と思った)
② 難しくてよくわからなかった。→0人
③ 受講しても日本語をすぐに教えられない→4人
④ その他 ()
→0人

6、将来日本語を教えたいですか

- ① 是非教えたい →2人 ② チャンスがあれば教えたい →7人
③ わからない →0人 ④ 教えたくない →0人
⑤ その他 ()
→0人

7、6で①と②の方はお答え下さい。どこで教えたいですか。

- ① 日本の日本語学校 →2人 ② 日本のボランティア教室 →7人
③ 日本にいる知り合い →0人 ④ 自分の国の日本語学校 →0人
⑤ 自分の国のボランティア教室→0人 ⑥ その他 () →0人

8、日本語を教えるときに、自分にとって1番難しいことは何ですか

- ① 語彙 → 2人 ② 文法 → 3人 ③ 発音 → 3人 ④ 表現 → 4人
⑤ その他（ 抑揚、日本文化の理解 ） → 2人

9、8に対してどうしたら良いと思いますか

あなたの考え：労力すべきだと思います／教える経験がないのでどういう方法、どんな表現すれば学習者に受け入れる／もっと勉強したい／繰り返して練習したほうが良いと思います／聞き取り会話の練習をする。

10、みなさんが日本語を学習したとき、「良い先生」だと感じたのはどんな人ですか。

- ① 熱心 ② やさしい ③ 説明がわかりやすい ④ 親しみやすい
⑤ その他（ ）

11、みなさんが日本語を学習したとき、良い先生ではないと感じたのはどんな人ですか。

- ① 説明がわかりにくい → 3人 ② 教科書と同じことしかやらない → 3人
③ 話し方が早い → 1人 ④ 声が小さい → 3人

12、教えられる時にいやな経験をしたことがあれば、書いてください。

政治的な話を聞かされたとき

13、日本語能力試験を受験したことがありますか

- ① ある *合格した級は 1級 → 4人 2級 → 1人
② あるが合格していない → 2人 ③ ない → 1人

講座の内容についてご意見をお願いします。*「残念だったこと」は回答がないものは載せてありません。

第1回 1月16日 「学んできたことを振り返って」 講師：鈴木勝代

★良かったこと

- ・学んだ日本語いつか社会に役に立つ。先生に感謝の気持ちを返したい。
- ・忘れたことを思い出したことが良かったです。
- ・日本に来る皆さん、それぞれの目的で来て、問題もいろいろ。でも、皆前向きに困難を越えて感心しました。皆の学んだ経験を聞いたり、話したり貴重な体験でした。
- ・日本にいる外国人について

★残念だったこと

- ・日本語がまだ足りない

第2回 1月23日 「母語を生かす活動を考える」 講師：米勢治子

★良かったこと

- ・自分の文化を利用して自分の国の人に外国語を教えます。
- ・困ったこと、よかったことなどをおたがに話し合えてきてその情報を支援できるきかいができること
- ・母語を使って私がなにをしてあげるか？どう対応するか？なにをできるか？慎重に考えなければなりません。言葉だけじゃなくてあたたかい声援、悩みを聞くこと
- ・母語を生かして日本語を教えられるのはすごく良い方法だと思います。最初日本に来た日本語が全然わからない外国人にとって友達もいないし、偏見もあるし、いろいろ不安があります。でも日本語がわからなくても、もし自分の国の言葉が出来る人がいたら安心できること。

★残念だったこと

- ・対応方法、具体策あまり出ませんでした。

第3回 1月30日 「毎日の生活で使える日本語」 講師：伊藤典子

★良かったこと

- ・毎日の生活、正しい日本語をつかうはずです。
- ・教科書を順番よりやくにたつことを勉強しながら必要な部分を教えることがよかった。
- ・自分のこと、学習者のこと、認識をもう一度新たにします。
- ・きちんとせつめいしました。
- ・教材について具体的にみなさんと検討しました。「教授観」のアンケートをしました。教材のメリット・デメリットとわかりました。

第4回 2月4日 「サバイバルクラスの授業見学」

★良かったこと

- ・先生たちはちから一杯をはいていろいろ工夫して外国人におしえています。すごく感動します。
- ・自分が知らなかったクラスを見学することができた。
- ・入門クラスを見学して感動しました。楽しいふんいきの中で身の周りの教材を利用して学習者がすぐ応用できます。ボランティアの責任を重く感じて。

☆残念だったこと

- ・見学の時間は短くて教える流れをもっと知りたい。

第5回 2月6日 「外の世界を教室に持ち込んだ教室活動」 講師：衣川 隆夫

★良かったこと

- ・外の世界をあいてに上手におしえる
- ・自分の周りのことも注意した。
- ・初めての体験してドキドキしました。2～4人のグループをしてお互いに練習して、自分と相手との発音、表現、いい点、欠点をしりながら直す。
- ・絵とか実物を利用して教えるのはいいと思います。話を聞いて質問をする。自分が言いたいことをちゃんと考えて相手にわかりやすく説明をして

第6回 2月13日 「活動の実際と気をつけたほうがいいこと」講師：野澤佳子

★良かったこと

- ・文化がちがうと外国語を理解しにくい
- ・楽しいクラスの事を聞いた。よかった。
- ・ボランティアの気持ちと精神が持ちますか？熟考中？
- ・自分が活躍している日本語教室のことを紹介していただいて雰囲気がわかりました。学習者によって
学習している外国語を話す人たちと練習する機会を作る。言語を学ぶことは楽しいことだと学生が感じられるようにする。

第7回 2月20日 「子どもへの支援」講師：松本一子

★良かったこと

- ・あまり子どもたちのことをわからなかったけれどもとても必要なことだと思います。
- ・情報もらってよかった
- ・外国で生活するのを大人でさえ難しく大変でいわんや子供たちにおいてもっと厳しいと思い、とくに敏感な思春期ごろ周りに就労の為に日本に来た友達が何人かいる。この講座参加している子供についての問題相談に来たらこたえられる。
- ・子供向けの教え方を習いました。日本の学校についてたくさん勉強になりました。できるだけ強化で日本語を教えます。そして勉強すると共に学力も身につけます。例えば二部制とか、落第、給食、進路とか。

★残念だったこと

- ・子供いないので親の心境、その大変さをしみじみ感じるけれど、実際に育てた経験がない。
説得力がちょっとうすい。
- ・日本にいる外国人の子どもと交流することがない。自分自身であまりわからない。

第8回 2月27日 「楽しく活動するためには」講師：吉田千寿子

★良かったこと

- ・音楽を生かして外国語を習うのがとてもいいと思います。

- ・すごくおもしろかったです。
- ・一歩踏み出す小さな自信が生まれすごくはげまされる。コースデザインの流れ、全体的
- ・先生はアメリカでの経験をたくさん教えてもらいました。本当にすごいなと思います。
コースデザインの説明は分かりやすく、笑顔と音楽は素晴らしいです。音楽は万国共通なので
学生が楽しく日本語が学べるようにまずは自分が授業作りを楽しむように心がけていること。

第9回 3月6日 「日本語をどう教えるか」 講師：宮谷敦美

★良かったこと

- ・講師がおもしろかったです。
- ・コミュニケーションの目的と大切さ、各国から人たち、さまざまな週間、宗教・・・
日本語を使って相手に理解して人間関係をうまくいく。日常生活の話題をして、日本語で交流しながら学習の中で友せる関係もきづく。
- ・おしゃべりしながら日本語の上達に結びつける方法（日々の生活について／自分の経験について／生活情報について）1つのトピックを繰り返しながらスパイラルに難易度を高くする。

第10回 3月13日

★良かったこと

- ・あいてによるこぶきもちをあたえることがむずかしい
- ・ほかの人の経験が聞きましてとても良かった！
- ・同じ外国人ですがとても祐紀があつて積極的な態度がうらやましいです。
- ・同じ国の人のお話を聞いてよかった。

これからのために

1、もし、今回のような講座を開くとしたら、次の受講生のために、ご意見をお知らせください。

- ・毎年この講座をしたら良いと思います。
- ・もとふかい話題をはなしてほしい。具体的教え方をはなしてほしい。
- ・重複することは除いてやったらもっといいと思います。実際活動するきかひが多かったらもっとよいと思います。

2、さらに、あなたがこの後、続いて日本語ボランティア講座を受けるとしたら、どうい

う内容のものがいいですか？

- ・宿題があればいいと思います。
- ・いろいろな国のはなしあうきかいがほしい。外国の文化のちがいを尊敬して交流しましょう。
- ・日本語を教えるための実際技術を習ったらいいと思います。

3、日本語教室で日本語が上手になってきたみなさんのような方が望む講座を教えてください。

- 1、話し方講座（日本人と同じようなイントネーション、発音を目指す）→3人
- 2、作文講座（日本語で、手紙やお知らせを書くためのもの）→4人
- 3、その他（ ）

* アンケートにご協力ありがとうございました。

おわりに

文化庁委嘱事業を無事に終えることができたのも一つは受講者の皆さんの暖かさ、もう一つは委員の皆さんの真摯な意見交換によるものだと思います。

初めに講座開催を決めた時、「ことばの会」には多くの外国人が通ってくるので、講座を開けば、多くの人たちが参加してくれると簡単に考えていました。しかし、ちらしを配布してもアジア中心の女性たちは日本語能力試験1級に合格しているのに、「そんな力はありません。」「発音が悪いから、ダメです。」と謙虚なことこの上なく、果たして集まるのか不安でした。講座開講が日本語能力試験の後だったのが幸いして、合格した後に勉強するのによさそうだと考えた人がボツボツと申込み始め、定員(10名)を越え、最終的には18名になりました。

ところが、いざスタートすると、「日本語のテキストをどう教えるか」の講座だと思っていた人たちは2回目まででやめて、通常の日本語教室の学習者に戻ってしまいました。企画運営委員会で受講者からの希望も取り入れて、無理のないカリキュラムを組んだつもりが、もっと「勉強になること」を求められていたようです。「ボランティアでなく、仕事になるもの」という思いも強く感じました。

それでも、「こういう機会はなかった」「他の友達も聞きたがっている」と話してくれたことで、委員会でも始めの意図を大きく変えることはしないことを決定し、受講者が固定すると、グループワークや発表にも慣れて、毎回楽しい授業風景が見られました。

この講座で、「ことばの会」スタッフも毎回、何人かが一緒に参加し、普段の活動とは違った経験をすることができました。外国人と日本人が共に学び合った講座だといえるでしょう。

民間団体の「ことばの会」が受ける事業としては重いものがありましたが、この講座を通して、行政の方たちとも真剣に「何ができるのか、何をしていたらいいのか」話し合えることができました。大学と行政と民間団体が力を合わせることに気持ちよさを味わうことのできた事業だったと報告申し上げます。

最後に企画運営委員会の皆さま、「ことばの会」スタッフの皆さま、そして、受講して下さった皆さま、ありがとうございました。

それぞれに次の階段を上がりましょう！

平成 21 年 3 月 31 日

鈴木 勝代